会　　議　　記　　録

会議名称	第１回杉並区立ゆうゆう館協働事業実施団体受託者候補者選定委員会
日　　時	令和８年７月９日（木）　１０：００～１１：１５
場　　所	杉並区役所　中棟４階第２委員会室
委員名	東京都健康長寿医療センター研究所　研究副部長　：　鈴木　宏幸 聖学院大学　心理福祉学部心理福祉学科　准教授　：　長谷部　雅美 明治大学　農学部非常勤講師　：　藤木　千草 杉並区保健福祉部高齢者担当部長　：　徳嵩　淳一 杉並区区民生活部地域施設担当課長　：　近藤　伸吾
事務局	杉並区保健福祉部高齢者施設整備担当課長　：　海津　康徳 杉並区保健福祉部高齢者施策課施設担当係長　：　藤澤　和彦 杉並区保健福祉部高齢者施策課施設担当主査　：　大西　裕章 杉並区保健福祉部高齢者施策課施設整備推進係　：　佐野　菜々花、久野　秀学
配布資料	次第 資料１　ゆうゆう館協働事業実施団体受託者候補者選定委員会委員名簿 資料２　杉並区プロポーザル選定委員会条例 資料３　選定委員会の運営方針（案）について 資料４　選定委員会スケジュール（案） 資料５　募集要項（案） 資料６　審査基準（案） 資料７　第一次・第二次審査表（案）
会議次第	１　委員紹介 ２　会長の選出・会長職務代理の指名 ３　議事 （１）選定委員会の運営方針について （２）スケジュールについて （３）募集要項について （４）審査基準及び審査表について （５）その他

会議の結果及び主要な発言（会議の要旨）	事務局による資料確認と委員の自己紹介を行った。 会長の選出に当たり、藤木委員より鈴木委員を会長に推薦する発言があり、この提案に対する全委員の賛同をもって、鈴木委員を会長に選出した。 会長職務代理の指名に当たり、鈴木会長より、藤木委員を会長職務代理とする案が提示され、これに対する全員の賛同をもって、藤木委員を会長職務代理として選出した。 一、議事 （１）選定委員会の運営方針について 選定委員会の運営方針（案）について（資料３）事務局より説明し、提案のとおり決定した。 （２）スケジュールについて 選定委員会スケジュール（案）（資料４）について事務局より説明し、提案のとおり決定した。 （３）募集要項について（「・」は委員の発言、「→」は事務局の回答を示す） 募集要項（案）（資料５）について、事務局より説明した。 ・選定対象４館が施設マネジメント計画に該当しないか質問があった。 →該当しない旨回答した ・今回、新たに評価の視点に追加された「介護予防・フレイル予防の考え方」について、以前から同趣旨の内容が含まれていたか質問があった。 →今回から新たに評価項目として追加した旨回答した。 ・健康増進という視点も重要であるという意見があった。 ・ゆうゆう館の機能として、介護予防・フレイル予防を区は示しているのか。また、団体に介護予防・フレイル予防を求める根拠があるのかについて質問があった。 →介護予防・フレイル予防は、高齢者の健康づくりや生きがいづくりにつながるものと考えており、今回評価項目として追加したのは、事業者の考え方をより深く確認するとともに、当該視点を持った事業展開を促すためであると回答した。 ・社会課題への考え方における、障害者及び高齢者の雇用状況の記載について、障害者及び高齢者の基準とは何かについて質問があった。 →高齢者は 65 歳以上を想定している。また、障害者については、一般企業等における法定雇用率の対象者の判断基準を参考に、募集要項に追記すると回答した。 ・参加資格について、特定非営利活動法人のみしか応募できないのかについて質問があった。 →現在は社会福祉法人が実施している例もあり、公共的な事業を実施していれば任意団体等も応募可能である旨回答した。 ・提案時の内容が実際には実施できていない例があるため、評価の視点に提案の実現可能性の項目を追加してはどうかとの意見があった。 →提案の実現可能性について、二次審査において確認する項目があると回答した。 ・応募書類の提出方法にデータ提出を追加した意図について質問があった。

	→事務局の事務作業の効率化を目的とした旨回答した。 ・介護予防・フレイル予防の重要性を問うだけでなく、健康増進や介護予防に関する考え方を記載できる設問とした方が良いとの意見があった。 →理念のみの記載にとどまることのないよう、提案内容に基づく具体的な取組や実施方法を確認できるよう企画提案書に追記すると回答した。 （４）審査基準及び審査表について（「・」は委員の発言、「→」は事務局の回答を示す） 審査基準（案）（資料６）、第一次・第二次審査表（案）（資料７）について、事務局より説明した。 ・主たる事業所と従たる事業所がともに区内にある場合の加点の取扱いについて質問があった。 →両方の加算は行わず、いずれか一方のみを加算する旨回答した。 各委員からの質疑・意見を踏まえて、募集要項（案）、審査基準（案）、第一次・第二次審査表（案）について修正をすることとし、全委員の同意を得た。

会　　議　　記　　録

会議名称		第２回杉並区立ゆうゆう館協働事業実施団体受託者候補者選定委員会
日　　時		令和８年 10 月７日（水）　メール開催
場　　所		（メール開催）
委員名		東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長 ： 鈴木　宏幸 聖学院大学 心理福祉学部心理福祉学科 准教授 ： 長谷部　雅美 明治大学 農学部非常勤講師 ： 藤木　千草 杉並区区民生活部地域施設担当課長 ： 近藤　伸吾 杉並区保健福祉部地域包括ケア推進担当課長 ： 石野　哲夫（※） ※第１回選定委員会では保健福祉部高齢者担当部長 徳嵩 淳一が委員であったが、公募締切後に応募団体との利害関係が判明したため、第２回選定委員会前に交代した。
事務局		保健福祉部高齢者施設整備担当課長 ： 海津　康徳 保健福祉部高齢者施策課施設担当係長 ： 藤澤　和彦 保健福祉部高齢者施策課施設担当主査 ： 大西　裕章 保健福祉部高齢者施策課施設整備推進係 ： 久野　秀学、佐野　菜々花
配布資料	事前	応募書類（副本）一式 財務診断報告書 利害関係確認チェックシート 審査基準 第一次審査表 第一次・第二次審査表
	当日	次第 資料１　　第一次審査集計 資料２　　審査基準 資料３　　第一次・第二次審査表 資料４　　第二次審査表 資料５　　共通質問（案） 資料６　　第二次審査スケジュール（案） 参考資料　　利用者アンケート集計表

会 議 次 第	1　第一次審査 2　メール会議 （1）第一次審査の結果について （2）議事 ①共通質問（案）について ②第二次審査の進行について
会議の結果及び主要な発言（会議の要旨）	1　第一次審査 10 月 2 日（金）を締切とし、各委員第一次審査を実施した。 2　メール会議 10月 7 日（水）に第一次審査集計結果及び、二次審査（ヒアリング審査）の共通質問（案）の内容について、メール会議を開催した。 （1）第一次審査の結果について 第一次審査集計結果について、各委員の同意により結果が確定し、全応募事業者を第一次通過団体とすることとした。 また、審査基準（資料２）、第一次・第二次審査表（資料３）、第二次審査表（資料４）について事務局より説明した。 （2）議 事 ①共通質問（案）について 共通質問（案）（資料５）について事務局より説明した。共通質問（案）について、全委員の同意を得た。 ②第二次審査の進行について 第二次審査スケジュール（案）（資料６）について事務局より説明した。第二次審査スケジュール（案）について、全委員の同意を得た。

会　　議　　記　　録

会議名称	第３回杉並区立ゆうゆう館協働事業実施団体受託者候補者選定委員会
日　　時	令和８年 10 月 26 日（月）　１３：００～１６：３５
場　　所	杉並区役所　中棟４階第２委員会室
委員名	東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長　：　鈴木　宏幸 聖学院大学 心理福祉学部心理福祉学科 准教授　：　長谷部　雅美 明治大学 農学部非常勤講師　：　藤木　千草 杉並区区民生活部地域施設担当課長　：　近藤　伸吾 杉並区保健福祉部地域包括ケア推進担当課長　：　石野　哲夫
事務局	保健福祉部高齢者施設整備担当課長　：　海津　康徳 保健福祉部高齢者施策課施設担当係長　：　藤澤　和彦 保健福祉部高齢者施策課施設担当主査　：　大西　裕章 保健福祉部高齢者施策課施設整備推進係　：　久野　秀学、佐野　菜々花 窪田　愼一、菊地　陽子
配布資料	次第 資料１　　第一次審査　審査結果 資料２　　審査基準 資料３　　第二次審査　スケジュール 資料４－１　第二次審査の進め方について 資料４－２　共通質問（団体用） 資料４－３　共通質問 資料５　　第一次審査表および第二次採点表
会議次第	１　第一次審査の結果について ２　第二次審査の進め方について ３　団体プレゼンテーション・ヒアリング ４　第二次審査の集計結果について ５　選定団体及び実施館の決定・講評等 ６　その他

会議の結果及び主要な発言（会議の要旨）	事務局より、本日の進め方、第一次審査の結果、第二次審査の進め方について説明を行った。 プレゼンテーション、ヒアリング（共通質問含む）を行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果を基に本選定委員会の受託者候補者を選定する旨、説明を行った。 各団体のプレゼンテーションに対し、ヒアリング（共通質問含む）、審査を行った。 【A団体への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は団体の回答を示す） ・提案事業の価格設定の根拠について質問があった。 →参加費設定の根拠について回答した。 ・提案事業の企画に至った経緯について質問があった。 →提案に至った経緯について回答した。 ・提案事業のこれまでの成果や呼びかけ方法について質問があった。 →これまでの参加者数や呼びかけ方法ついて回答した。 ・新規利用者の獲得方法について質問があった。 →新規利用者の獲得方法について回答した。 ・高齢者の介護予防、フレイル予防の考え方等について質問があった。 →介護予防、フレイル予防についての考え方や今後の取り組み方について回答した。 ・継続的な利用に繋げていくための工夫について質問があった。 →現在の取り組み状況について回答した。 ・地域でのつながりの強化に向けた取組について質問があった。 →現在の地域との連携状況について回答した。 ・SNS を利用した周知について、利用者の反応等について質問があった。 →SNS の準備状況および利用者の反応について回答した。 ・提案事業の実現可能性や募集方法について質問があった。 →提案事業の募集方法について回答した。 【B団体への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は団体の回答を示す） ・提案事業の実現可能性について質問があった。 →実現可能性について回答した。 ・地域の居場所づくりとしての機能について質問があった。 →団体としての考え方を回答した。 ・具体的な運営方法について質問があった。 →提案事業を例に挙げて運営方法について回答した。 ・団体内のゆうゆう館の位置付けについて質問があった。 →団体としての考え方を回答した。 ・新規利用者の獲得方法について質問があった。 →PR 方法等について回答した。 ・提案事業の募集方法について質問があった。 →現在の募集方法の実態について回答した。 ・一部の事業の提案内容について質問があった。

	→事業の提案に至った経緯や団体の考え方について回答した。 ・高齢者の介護予防、フレイル予防の考え方等について質問があった。 →一部の事業を例に介護予防、フレイル予防の考え方等について回答した。 ・地域団体とのこれまでの交流、今後の考え方について質問があった。 →地域団体との交流状況および今後の方針について回答した。 【C団体への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は団体の回答を示す） ・夜間利用の今後の取り組み方について質問があった。 →地域の特性を踏まえて取り組む旨回答した。 ・PR 方法について質問があった。 →これまでの PR 方法や今後の方法について回答した。 ・提案事業の企画に至った経緯について質問があった。 →過去の他施設の運営状況等を踏まえた旨回答した。 ・多世代交流の今後の事業展開について質問があった。 →ニーズを踏まえた今後の事業展開について回答した。 ・数ある提案事業の中から、当該事業を選定した理由について質問があった。 →当該事業を選定した理由について回答した。 ・どのような事業が利用者から評価されていたのかについて質問があった。 →利用者から評価されていた事業について回答した。 ・実現可能性の観点で、どのような優先順位をもって事業を企画しているのかについて質問があった。 →事業に対する団体の考え方について回答した。 ・高齢者の介護予防、フレイル予防の考え方等について質問があった。 →介護予防、フレイル予防の考え方や今後について回答した。 ・提案事業の中で、特に力の入れたい事業について質問があった。 →特に力の入れたい事業について回答した。 ・地域団体との今後の交流について質問があった。 →過去の運営実績等を踏まえて今後の交流について回答した。 ・館職員の配置体制についての質問があった。 →今後の職員の配置体制について回答した。 ・受託希望施設を第一希望のみにした理由について質問があった。 →過去の運営実績を踏まえ理由について回答した。 ・施設の老朽化を理解している上での希望かということについて質問があった。 →理解した上での希望という旨回答した。 【D団体への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は団体の回答を示す） ・提案事業の企画に至った工夫点等について質問があった。 →提案事業の企画に当たっての考え方や工夫点について回答した。 ・若い世代に向けての PR 方法について質問があった。 →若い世代向けの PR 方法について回答した。 ・若い世代向け事業が多い中、高齢者向け事業の考え方について質問があった。 →高齢者向け事業の考え方や実績について回答した。 ・提案事業における寄付について質問があった。 →寄付状況について回答した。

	・提案事業数の上限や実施可能な回数について質問があった。 →現状の上限や今後の見通しについて回答した。 ・地域人材を講師として確保するための募集方法等についての質問があった。 →団体としての募集方法等について回答した。 ・高齢者の介護予防、フレイル予防の重要性について質問があった。 →介護予防、フレイル予防の重要性について回答した。 ・介護を必要としている方への継続的な支援方法等について質問があった。 →継続的な支援に向けた現場での対応方法等について回答した。 ・既存利用者と新規利用者への対応の考え方について質問があった。 →既存利用者、新規利用者それぞれの対応方法について回答した。 【E 団体への主な質疑】（「・」は委員の発言、「→」は団体の回答を示す） ・新規利用者の獲得や夜間利用の促進に向けて、提案事業で工夫した点について質問があった。 →新規利用者の獲得、夜間利用の促進に向けて工夫した点について回答した。 ・夜間利用拡大の工夫について質問があった。 →夜間利用の現状について回答した。 ・多世代交流の事業について質問があった。 →現状および今後について回答した。 ・職員の男女構成比について質問があった。 →現状の構成比について回答した。 ・現在の事業の開催回数等について質問があった。 →現在の開催回数などについて回答した。 ・提案事業の企画に至った経緯について質問があった。 →企画に至るまでの経緯等について回答した。 ・提案事業の入れ替えについて質問があった。 →ニーズに応じて新規事業を導入している旨回答した。 ・新規利用者の獲得方法について質問があった。 →現状の獲得状況および今後の方法について回答した。 ・高齢者の介護予防、フレイル予防の重要性について質問があった。 →団体、館職員の状況について回答した。 ・介護予防・フレイル予防が必要な方への効果的な支援方法について質問があった。 →今後の介護予防、フレイル予防の支援方法について回答した。 ・他団体との連携状況について質問があった。 →他団体との連携実績について回答した。 ・地域団体との今後の連携について質問があった。 →現状の地域団体との連携状況や今後の連携について回答した。 各委員の審査終了後、各委員の審査結果を選定委員会内で共有をした。

	○主な意見 【選定された団体について】 ・協働事業に対する新たな姿勢や地域団体との連携の部分について評価できた。 ・様々な施設の運営をしており、経験が豊富で安心感を感じられた。今後の取り組みに期待したい。 ・定着率の高い事業を取り入れ、確実な利用者の獲得につながる実現可能性が強く感じられた。 ・何度か運営が変わった経験を持っているため、引継ぎ等もスムーズに行える可能性が高いのではないかと感じた。 【選定されなかった団体について】 ・提案内容は考えられていたものの、団体の特色を生かした企画提案がなされていなかった。また、ゆうゆう館の運営というよりも、団体の運営についての発言が多く目立ってしまっていた。 ・提案事業内の多世代交流に対する意識が薄く、利用者のニーズが反映された事業展開もなされていなかった。